

J A I F

国際結婚を考える会

Japan Association of Intercultural Families

会報誌第**14**号 www.kokusaikazoku.com/
jaif@kokusaikazoku.com

【特集】国際家族の二拠点生活



書きとめておきたい、
こえる家族のかたち。
子育てになって40年、それでもまだ後進国への道は遠い。
めぐりこよ、次世代に「トランジェンティ」を、国際家族の体験記。



Page	CONTENTS	
	【特集】 国際家族の二拠点生活	
3	● <u>「日米二拠点の迷い」</u>	リード 真澄 (会員)
6	● <u>「韓国と日本の二拠点生活を終えて」</u>	Anne Y. (会員)
8	● <u>「生活拠点を複数持つという暮らし方」</u>	ムルロウ伸子 (会員)
11	● <u>「不特定多数拠点生活」</u>	シュトッカーかほる (会員)
17	● <u>「ドイツ風アメリカ料理」</u>	ケリング 眞理子 (会員)
19	● <u>「Culture Crossing」</u>	三好 郁也 (会員)
20	● <u>「素顔の国際結婚」の今」</u>	編集委員
21	<u>JAIFイベント報告</u>	イベント係
22	<u>編集後記 次号予告</u>	会報係

日米二拠点の迷い

リード 真澄（会員）日本在住

私は10代後半から日本を脱出したいという思いが強くなり、高校時代に留学したオーストラリアで、大学卒業後一年間仕事をし、帰国直後夫と出会いました。結婚後7年ほど東京に住み、夫の仕事のため娘が幼児の頃から米国に住むことになりました。私は25年ほど公立高校で日本語教師として働き、とてもやり甲斐がありました。毎年2, 3回、そのうち1回は学生を連れて一時帰国しましたが、自分の拠点は仕事と生活中心の米国！と感じており、いつでも一時帰国できる日本に拠点をもちたいという気にはなりませんでした。

30代から約30年間米国に住んで働いている間に父を失い、米国籍を取得して日本人ではなくなりました。数年前、母の高齢化を気にし始めた夫が「もう25年も高校で教えているんだから、退職してお義母さんのために日本に戻ろうよ」と言ってくれたのです。日本国籍がなかった私は「配偶者等ビザ(日本人の子を含む)」を申請し、米国人として「帰国」しました。以前の職場で再び仕事をすることになった夫も、日本語が堪能、東京の生活も和食も大好きなので、日本に戻りたかったのでしょう。彼は昨年退職しましたが、東京で共通点のある友人との交流を楽しんでいます。

非常にラッキーだったのは、私達が日本で生活を始める少し前から、当時大学院生だった娘が奨学金を得て東京で研究をしていたことです。約一年間、娘と同じ町で暮らすことができたのは本当に嬉しく、母にも定期的に会いに行きました。

私は帰国後大学院に入学し、退職して年金を受け取っていたので、仕事をせず大学院で研究できた2年間は最高でした。若い友人ができ、教授にも恵まれた貴重な経験になりました。その後、誤嚥性肺炎で入院を続けた母には、残念ながらコロナ禍のため頻りに会えなくなったのですが、亡くなった時は看取ることができました。コロナ禍前に帰国したことも実に幸運でした。大学院卒業後は講師になり、熱心に学習する留学生に日本語を教えています。



東京のアパートからの眺め

日米二拠点の迷い

リード真澄（会員） 日本在住

帰国前から気になっていた自殺や不登校、貧困など、問題の多い日本に少しでも貢献したいという気持ちがより強くなり、色々なボランティア活動に関わっています。また、一時帰国では会えなかった小学校～高校の同級生たちや親戚に会う機会にも恵まれ、忙しいものの最高に楽しい日々が続いています。また、帰国後も毎年夏休みに一か月ほど米国に戻っていましたが、異なる環境に身を置くことでとてもリラックスできました。米国滞在中は夫が兄弟と所有している家でゆっくり休める機会になりました。米国の自宅を貸していたからです。

帰国後数年経った時点で夫が退職し、私も大学を一学期間休職して半年ほど米国に戻りました。居住者が引っ越したので自宅に戻れたのですが、私は東京で仕事を続けているので、この時から日米二拠点の行き来が始まりました。二拠点あるのは贅沢だ、羨ましいと多くの方々から言われます。行き来を始めてから、米国の拠点、つまり長年居住していた自宅と数年前から自分が生まれ育った東京が拠点になったのです。若い時と異なり、高齢者として東京で生活していると、やはり東京に落ち着きたいという気持ちが強くなりつつあります。その反面、30年近く働き、住んでいた町、20年ほど暮らしていた自宅、そして、わずかではありますが、夫と自分の財産はアメリカが拠点になっています。幸い帰国中に日本国籍を再取得できたため、日米の行き来に問題はありますが、拠点を日本にすることで、税金関係の問題が発生する可能性があります。どちらの拠点も好ましい。でも同時に二拠点に住むことは不可能。兄弟も娘もいる米国を拠点にしたいという夫の要望が少しずつ高まっているようですが、私たちは別居する意図はないので、今後もしばらく二拠点を共に行き来することになるでしょう。考慮すべきことは、今後、移動が難しくなった場合、そして夫か私のどちらかが先に旅立つことになった時に備えて計画を立てる必要があることです。

国際結婚夫婦は、双方の国に拠点を持つことで相手への理解が深まると思います。でも、当然、お互いの国で働き生活することは簡単でないケースが多く、退職後二拠点を行き来する人もそれほど多くないかも知れません。



アメリカの自宅

日米二拠点の迷い

リード真澄（会員） 日本在住

私も夫もお互いの国で働いて生活していたので、現在二拠点の行き来に抵抗がなく、これはとても幸せなことです。

当然のことですが、同年代の友人の多くは、もうそろそろ終の住処をしっかりと決めているようです。終の住処は一つの拠点ですから、将来、といってもそれほど先ではない時点でどこに落ち着くか決めることが大切だと思っています。迷いは断ち切れないものの、色々な情報を確認しつつ、二拠点に関する今後の検討を続けて行くつもりです。



米国東海岸の島に夫が兄弟と共有している家があり、そこへも年に1～2度行きます。
島から撮った写真です。

韓国と日本の二拠点生活を終えて

Anne Y. (会員) 京都市在住

私が韓国と日本の二拠点生活を行ったのは2015年春から2019年秋にかけての約4年半です。どちらも自宅(韓国の方は夫、日本の方は私の名義)でした。自宅と自宅、自宅と賃貸、賃貸と賃貸など、それぞれの利点や不便な点があるかと思いますが、私の場合、どちらも自宅なのを念頭に置いて読んで頂けたら幸いです。

きっかけは私の体調不良でした。韓国で修士号をとった後、35歳から仕事を始めて20年が経った頃。名状しがたい疲労に襲われ検査したところ甲状腺機能低下症だとわかりました。落ち込む私に夫が「20年以上働いて年金ももらえるようになったし、今まで頑張ってきたのだからそろそろ早期退職を考えて日本に家を買って行ったり来たりしよう」と言ったのです。私の方は「え、本気なの？そんな事あなた、できるの？」と気にも留めていませんでしたが、何度もしつこく？言うので、どうやら本気らしい！と察知して不動産のサイトに入って調べてみたら驚きでした。なんと、日本の中古マンションが2010年代初頭の韓国より安いとその時に初めてわかったのです。ちょうど子供たちの教育資金を心配する必要がない時期に入っていましたので、購入資金はなんとか工面できそうだと考えました。夫は日本の不動産市場について情報をもっていたのでしょうか？それとも、私の気を紛らわすために自宅を買おうなんて言ったのでしょうか？今となっては遠い記憶になりすぎていてわかりません…。ただし、「あなたの名義にしていけど契約手続きはすべてお任せしま〜す」でしたので、まだ治療中だった当時の私にとってはかなりのプレッシャーでした。幸い親切な不動産会社の方が見つかり、日本に在住していない私のために色々調べてくださって、必要な書類(在韓日本大使館で発行される韓国での在留証明書、印鑑登録証明書など)を提示してもらい助かりました。

実家のある東海地方ではなく京都に決めた理由は、夫が留学時代を過ごし土地勘があり在日の親戚もいる京都を希望したためです。高齢の母や妹のためにも実家の近くを私は希望したのですが、それだけは譲れないと夫に言われて私が諦めました。春、秋に数週間、冬に二か月程度滞在したおかげで、在職中は行けなかった日本各地への旅行を楽しみ、旧友たちとの再会を喜び合い、実家にも頻繁に足を運ぶことができました。



ソウル近郊では3月下旬から4月にかけて一斉に花々が咲き始めます。マンション団地の中を結ぶ坂道に、揃って咲く桜とレンギョウです。

韓国と日本の二拠点生活を終えて

Anne Y. (会員) 京都市在住

ただ、冬に二か月も韓国の自宅を留守にするためには、オンドル設備が凍結しないよう細心の注意を払わなければなりませんでした。京都の自宅には息子が勤務地のある大阪から引っ越して管理してくれて、おおいに助かりました。

転機が訪れたのは、二拠点生活を始めて3年。親子とは言え冬に二か月も私たち夫婦が滞在すると息子の負担が大変だと察した頃です。ローンを組んで同じ区内の数キロ離れたところに息子が自宅を購入した後、無人となった私たち夫婦の自宅をどう管理しようかと考えた頃です。ちょうど行ったり来たりの生活に体力的に疲れが出始めていました。早朝の便に乗れば夕方には荷物の整理を終え近くのスーパーで買い物ができるくらいなのにもかかわらずです。また、夫が手術を考えていて、韓国で手術を受けるか日本で受けるか悩んでもいました。

決定打になったのは、30歳前後になった子供たちに「韓国に戻る気があるの？戻るとしたら何年後？」と聞いた時の反応。二人とも口を揃えて「韓国に戻るつもりだよ、30年後ぐらいかな」と言ったのです！「30年後ならパパママは遠いあの世に行っているか認知症になっていると思うけどね～」と返しましたが、二人ともきょとんとしていました…。30歳前後の若者にとって30年後の事は想像がつかなかったのでしょうか、きっと。子供たちが韓国に戻ろうとしても、もはや実家が無いという事になるのは胸が痛みましたが、自立した生活ができなくなる前に決断するとしたら今しかない！と思いました。それからは永住帰国をめざして、韓国の自宅の売却、資産の整理などに時間を費やしなから、日本での住民票作成、税金納付、国民健康保険加入なども始めました。1年半があっという間に過ぎ去り、最小限までに減らした引っ越し荷物をコンテナで送り、やっと日本に永住帰国できたのはコロナ禍が始まる直前でした。

せっかく築き上げた韓国での繋がりが消えて無くなってしまうようでとても残念でしたが、夫が京都での生活を楽しんでいてくれるのが何よりも幸せです。私の二拠点生活の顛末を最後までお読みくださり感謝です。



中庭に咲く桜。2000年代になってから建設されたマンションの庭には桜が植えられることが多くなりました。

「生活拠点を複数持つという暮らし方」

ムルロウ伸子（会員）ドイツ在住

自分の家や住所の所在地と申しますと、どこかある一か所だけというのが普通だとずっと思われていたと思います。別荘を持つ方や職場を自宅とは別に持つ方がいらしたとしても、住所の登録をしているところがメインで、あとのところは一時的な居場所であろうと解釈されているように思います。

私の興味は、いくつかの住みかといいますか生活拠点をもち、国をまたいだりして、それぞれのところにある程度長期に滞在するというような居住スタイルは可能だろうかということです。私たちのように国際結婚などにより、ふるさとが複数あるという場面はかなり一般的にあるのではないかと考えます。ふるさとなりご縁のある場所に、それぞれ自宅を持てたらいいなと思っていました。



フランス、マルセイユにて

そうしているうちにコロナ禍が襲ってきて、世の中はすっかりリモートワークに寛容になりました。職場近くの家ほかに、ゆっくり広く住めてリモートワークができる自宅を郊外や田舎に持つことが世間に受け入れられるようになったのです。価値観の転換が起こったのです。

「生活拠点を複数持つという暮らし方」

ムルロウ伸子（会員）ドイツ在住

あるジャーナリストの方は3か所に自宅があり、それぞれを均等にまわって住まわれているとのことでした。そのような望みがあって、そのような働き方が許される条件下にある人にとっては、刺激のある住まい方ではないかとうらやましく思いました。単に旅行に行くのとはちょっと違う、現地との濃いかわり方ができるのではないのでしょうか。

旅行は旅行でしたいけれども、その土地に惚れ込んで近所づきあいなども含めて、長く住みたいと思うことがあります。また、そこまでではなくても、知らない土地を知るために何か月なり何年なり、長期滞在をしてみたいと思ったりします。土地の食べ物を買って自分で調理したり、行事に参加したり、住んでいる人たちと話したりするのは、視野が広がって楽しそうです。違う国にいったら、そこでその土地の言葉を習ったりもできます。その地のダンスを習うとか、ローカルな文化を吸収するなど積極的な交流をするのもおもしろそうです。



山形県、銀山温泉にて

実際の住まいの他に実家と頻繁に行き来するというのも、ある意味二拠点ですね。よく考えるとそれほど珍しいことでもないかもしれません。自分の居場所としていつでも帰ることのできる場所をいくつか複数持つ、というアイデアに惹かれるのです。

私は今ドイツ在住ですが、ふるさとは日本です。主人のふるさとはアイルランドです。ふたりともフランスが好きです。スペインやポルトガルも好きそうな気がします。イタリアも良かったです。ということで、具体的にどこに拠点を持つかというところまでは至っていません。EU内部の移動は国内同様のできるのです、言葉などの問題以外にはハードルが低いとも言えます。リタイアした後の自由に心が躍ります。

日本国内の旅行ももっとしてみたいので、日本に生活拠点がひとつあるといいなと思うのです。そこを足場にして北に一回、南に一回、みたいに滞在中に旅行に行けたら理想的です。

「生活拠点を複数持つという暮らし方」

ムルロウ伸子（会員）ドイツ在住

日本に長く住む場合は住民票を入れるとか保険料を払うとか、事務手続きもいろいろしなければならぬでしょう。資金面でもおそらく負担が多くなると思われます。ホテルに泊まったほうが、費用がかからなかったりするかもしれないとも思います。

世界の観光地にはエア・ビーアンドビーに代表されるような長期滞在向けの住居が提供されています。それらを上手に利用するという方法もあると思いますが、中の家具や調度品が自分のものではない、という不満が少しあります。私の中ではそういうのは旅行向けかなという位置付けです。自分の家ではないと。

自宅が複数あったら、いない間の手入れはどうするのか、という難しい問題があります。頼める知人がいなければ、誰か業者さんなどに依頼することになるのでしょうか。前述のジャーナリストさんは、2-3週間ごとに廻っているのもので特に問題なしと言っていました。

近ければそうするのも可能でしょうけれども。



いくつもたくさんの自宅を保持するのは確かにあまり現実的ではないかもしれませんが。たとえば事業をやっていて、事業拠点を持つ必要からいくつか滞在拠点を置くというようなケースであったりすれば話は別ですが。世界を旅して廻るビリオネアの生活スタイルを夢見てみるのも悪くはありません。しかし、実現するのにかかるコストにしても、そこから得られる体験や充足感に対して支払う対価と考えると、決して無駄ではなく価値のあるものと言えるでしょう。

ドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヒェンにて

とりあえずは2カ所の生活拠点を持つことを目標として、その前にまず長期の旅行から始めてみるというスタンスでいるところです。家族がいれば、その意見も尊重しなければなりませんので、調整は並々ならぬものになるおそれがあります。さしあたっては家庭内を和やかにすることから努力していきましょうか。

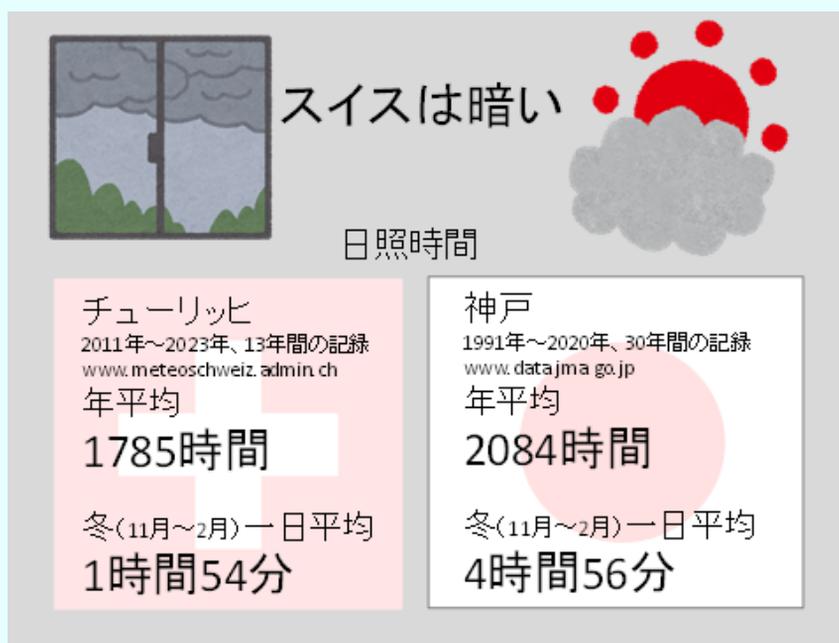
不特定多数拠点生活

シュトゥッカーかほる（会員）スイス在住

北欧の冬の日が短いのは有名ですがスイスだって負けてはいません。11月になると、この重苦しい雲の向こうに太陽があるとはとても信じられない日が続き、天に見捨てられたような気分になり落ち込みます。実際うつ病患者でクリニックがいっぱいになる時期でもあります。

わたしの故郷は兵庫県の瀬戸内海沿岸地方。子供の頃には山陽電鉄で姫路に向かうと海沿いに続く塩田が窓の外にきらきら光っていたものです。照りつける太陽が海水を干して塩にする、そんな日当たりの良い所からアルプスの山陰地方に来てしまったわけです。

ネットで統計を調べてみると、11月から2月までの日照時間が、チューリッヒでは神戸より毎日3時間短いのが数字ではっきりわかりました。



電気をつけて活動しようにも体も心も冬眠モード。冬ごもりしたくないなら網膜に太陽光を・・・ということで、スイス脱出を検討。夫の退職でそれが実行可能になりました。

不特定多数拠点生活

シュトッカーかほる（会員）スイス在住

2019年

まず行ったのは南半球、オーストラリア。クリスマスとお正月を済ませて1月15日に出発し、西側のパースに一ヶ月半と東側のシドニーに3週間、家を借りて滞在しました。パース到着の翌朝玄関を出ると、いきなり目の覚めるような真っ青な空。あるところにはあるんだ！と感動しました。



台所の使い勝手やスーパーの品揃えがスイスと似たレベルなので「普通の生活」ができました。ただし物価もスイスレベルなのが残念。

陽光降り注ぐシドニー港

2020年

今度も南半球ということで選んだのが、チリとアルゼンチン。前年と同じ1月15日に出発し、首都サンチャゴ・デ・チレと太平洋岸の保養地ビニャ・デル・マーレにそれぞれ3週間ほど滞在、飛行機でモンテビデオに飛んでウルグアイをバスで移動し、フェリーでラプラタ川の河口を渡ってブエノスアイレスに着きました。3月初めにイグアスの滝を見に行き、街に戻ってみると、まさかと思っていたコロナの影響が日に日に深刻になっていくところでした。



不特定多数拠点生活

シュトゥッカーかほる（会員）スイス在住



ついには空路遮断で帰れなくなり、スイス外務省の手配した救援機で帰国するまでの2週間は、外出禁止令の出たブエノスアイレスの街でアパートに缶詰め状態。幸い屋上テラス付きだったので、外の空気を吸いながら下界を見ると、周辺のどの街路にも武装した警官がうようよしています。

路上のタンゴ ブエノスアイレス

治安維持のため警察や機動隊の要員は日頃から十分に確保してあるのです。それだけでなくコロナ前からスーパーのレジでパスポートを見せろと言われてたり、ATMで少額しか出せないのが不可解でしたが、そのうち地元民には食料品の購入額や預金の引き下ろしに制約があるのがわかりました。



最初に滞在したサンチャゴ・デ・チレでもデモ隊の近くに居合わせて、生まれて初めて催涙ガスを体験したのです。やっと機体が離陸して眼下に小さくなっていく街並みを眺めると、救援機で帰国する国がない人たちに申し訳ない気がしました。

暴徒の襲撃を恐れて鉄板で防御した商店街 サンチャゴ・デ・チレ

不特定多数拠点生活

シュトゥッカーかほる（会員）スイス在住

2021年と2022年

コロナの影響でスイスで越冬。

2023年

中部以北のヨーロッパ人の冬越しの定番はタイ。中でもプーケットでしょう。本当に一番人気に値する所なのか現地調査に行きました。



あちこちにあるキリル文字の看板



ロシア人と討論した休暇村のプール

他にも二人ロシア人と話す機会がありました。一人はバイクの故障で立ち往生しているのを助けてくれた青年で、「ぼくは蛮族の国とは縁を切った」と吐き捨てるように言い、もう一人は「今帰って前線送りになるのはごめんだけどロシアの指導者は正しい」とプールサイドでカクテルを飲みながら熱弁。南国の太陽にも世界情勢の暗雲が影を投げかけていました。

北欧人が多いのは予想通りながら、前年から隣国に侵攻しているロシアからの観光客が圧倒的多数なのに驚きました。モスクワ⇄プーケット間は何事もないかのようにジェット機が往復しているのです。豪邸に暮らす富裕層のロシア人も見かけたし、最初に借りたアパートの隣の住人もうら若いロシア人のカップルでした。毎日まぶしい水着姿で海に出かけ青春をおう歌している二人に「このあと国に帰るの？」と尋ねたら、彼氏の方は「わからないんだ・・・」と顔を曇らせました。どうやらタイのビザを申請中のようで、親からの送金もままならず、もしも長期滞在が許可されてもその先どうなるのでしょうか。

不特定多数拠点生活

シュトゥッカーかほる（会員）スイス在住

ブーケットは大きい島で、アパートに一ヶ月、休暇村のロッジに2週間、残りの2週間は海岸のホテルに滞在しました。島にはたくさんコンビニがあるのですがちゃんとした食材が調達できる店は遠い所にしかありません。バスの時刻表はあてにならず、何度も炎天下の停留所で待ちぼうけ、レンタカーやバイクは命がけの運転が怖いし、移動手段に苦労しました。気温も1月中旬に着いたばかりの頃は過ごしやすかったのが3月に入ると35度を超えるようになり、活動できるのは日没後。物価の安さは魅力ですが「普通の生活」は難しいと思いました。

2024年

暑くても30度まで、それから夫の母親の健康状態が心配だったので、いざという時すぐ帰れる距離が行く先選びの条件になりました。地中海以南の近場で、ビールが飲めない宗教ではない所を地図で探すと大西洋上の島々しかありません。夫の友人が数年前に初めて訪れてほれ込み、即決で家を買ったというテネリファ島を試してみることにしました。モロッコの沖合いの島ですがスペイン領なのでヒジャブは無用です。

真ん中にプールのあるリゾート施設の中の一ユニットを借りて1月15日から2月いっぱい暮らしました。



借りた家のバルコニーから

滞在中一度もかさを開いたことはなく、揺れるヤシの葉の向こうは青空と青い海。日中最高気温が25度～28度でブーゲンビリアやハイビスカスが咲き乱れ、蚊が居ない・・・という申し分のない環境です。中央部にあるテイデ山は標高が富士山とほぼ同じ。火山の噴火でできた島なので月面のような風景もあれば見慣れない植物が生い茂る地帯もあり、いろいろな難易度のハイキングコースがあるのも魅力です。イギリス人に人気の島らしく、スーパーなどで耳に入るのは主として英国の英語、次にドイツ語、スペイン語はどこに行ったのという感じでした。

不特定多数拠点生活

シュトゥッカーかほる（会員）スイス在住

テネリファ島は、かつては農産物で生計を立てていたのが、観光客が押し寄せるようになって海岸にリゾートホテルが林立。仕事は観光業が主になり、島のあちこちに風化したバナナ園や立ち枯れたアーモンド畑がうら悲しい姿をさらしています。元々から町や村だった所が観光化されただけでなく、手つかずだった海岸が開発されたケースが多いようです。わたしたちの滞在した地域には20年より古い建物はなくて、島民の暮らしとの接点は皆無。海岸沿いにレストランが並ぶ遊歩道があり、内陸側の車道も広い歩道も並木や花壇で美しく整えられています。バスが主要な町をつないでいるし、車のレンタルも納得のいく料金で移動は楽でした。できすぎていて何か落とし穴がありそうなパラダイス。スペインの他の観光地と同様に観光客ボイコット運動がこの島にも広がりつつあります。気持ちはよくわかりますが、林立するホテルがバナナ園みたいに立ち枯れたら、本土から来た移民の子孫は幸せになれるのでしょうか。その辺を観察するべく次の冬もう一度テネリファに行く予定です。毎年ここでという場所にはまだ出会えず、冬越しの拠点はこれからも不特定多数のままになりそうです。



テイデ山 3715m

《ドイツ風アメリカ料理》

スロークッカー ポークチョップ

ゆっくり調理する電気釜がない場合は、普通の鍋で肉が柔らかくなるまで低温で長時間調理してください。

ケリング 眞理子（会員）アメリカ在住

私の夫のレイモンドは、ドイツ系アメリカ人で料理もするので、今回は彼が作るドイツ風アメリカ料理を紹介させていただきます。これにサラダとパンを添えれば、簡単に栄養満点の夕食が出来上がります。

厚く切ったポークチョップ（豚の骨つき背肉）が一番です。骨つきでなくても可。ただし骨つき肉ほど美味しくないかもしれません。



<材料> 4人分

ポークチョップ（厚切り） 4枚
塩

こしょう

パプリカパウダー

ガーリックパウダー

キャンベルの

Cream-of-chicken soup

Cream-of-mushroom soup 各 1 缶

玉ねぎ 1個

茶色のマッシュルーム 5個

牛肉のスープ（缶入り）

<作り方>

- ①ポークチョップに塩、コショウ、パプリカとガーリックパウダーを振りかける。
- ②フライパンに食用油を入れて熱し、肉の両面を軽く焼く。（片面3分ずつぐらい）
- ③スライスした玉ねぎを電気釜の底にしき、その上にスライスしたマッシュルームを置く。②のポークチョップをこの上に重ねる。
- ④キャンベルのCream-of-chicken soup、Cream-of-mushroom soup（水で薄めないでそのまま使う）と牛肉のスープを混ぜたもの（分量や配分は適宜）を少量肉の上にかき、電気釜の低温で7～8時間調理する。

ポークチョップの付け合わせ ポテトとニンジン

<材料>

ポテト適宜(Dutch baby yellow small potatoをしましたが、他の種類でも良いです。)

ニンジン適宜

《ドイツ風アメリカ料理》

ポークチョップの付け合わせ

ケリング 眞理子（会員）アメリカ在住

<作り方>

- ①ポテトをよく洗い、皮付きでそのままか、半分などに切る。
- ②切ったポテトは水につけて澱粉を少し洗い出す。
- ③ポテトの水気を拭いてから、少量のオリーブオイルで軽くあえる。
- ④オーブン用皿にポテトをのせて400F° /205°Cに熱したオーブンに入れる。軽く焼き色がつくまで30分ほどかかる。
- ⑤ニンジンの皮を剥き、適当な長さに、太いものは縦半分に切る。
- ⑥切ったにんじんを少量のオリーブオイルであえ、すでにオーブンの中にあるポテトの皿に加える。（ニンジンにはポテトほど火が通るのに時間がかからないので）
- ⑦ポテトとニンジンが共に良い焼き色になったら出来上がり。

赤キャベツ（千切りした赤キャベツに、水、ホワイトビネガー、ブラウンシュガー、シナモンなどのスパイス少量を加えて柔らかく煮たもの）やサワークラウトよく合う一品です。



スポケイン川のそばのハイキングトレールからの景色
ケリングさんはワシントン州スポケインにお住まいです

歴史の教えを守るのか、自らの意志で好きな人を守るのか。 「人種差別」という暗く重たいテーマを あえて「コメディ作品」として描いた作品

三好 郁也（みよし ふみや）

広島県三原市出身。東京在住。
大学時代、留学生だったリトアニア人の女性と出会い、9年間の交際の後、結婚。
広島と東京での2拠点生活中。



■ 「ジョジョ・ラビット」 (2019年・アメリカ)

「ジョジョ・ラビット」(2019年製
作/109分/G/アメリカ)

監督: タイカ・ワイティティ

第92回アカデミー賞では作品賞ほか
6部門でノミネート。

ジョジョ・ラビットという作品をご存知でしょうか。僕たち夫婦が劇場で観た映画作品のなかで、もっとも笑い、涙を流した作品です。

舞台は、第二次世界大戦下のドイツ。ユダヤ人が迫害されている暗い時代をテーマに取り上げています。迫害の歴史をあえてコメディ作品として、取り上げることで「人種差別」という大きな課題を身近に感じられます。

10歳の少年ジョジョは、空想上の友達(アドルフ・ヒトラー)の助けを借りて、立派な兵士になろうと奮闘していた。ジョジョの目標は、学校で教わった「モンスターのようユダヤ人」を倒し、立派な兵士になること。

そんな中、ジョジョは母親と2人で暮らす家の隠し部屋に、ユダヤ人の少女エルサが匿われていることに気づく。小さな頃から、ユダヤ人は「モンスター」と教わっていたにもかかわらず、目の前にいる女の子は、自分と変わらない普通の女の子。教わっていたユダヤ人と、目の前にいるユダヤ人のギャップに困惑しながらも、強く勇敢なユダヤ人の少女エルサに心惹かれていく…。

歴史の教えを守るのか。自らの意志で好きな人を守るのか。国籍・人種の違いを乗り越えた恋愛だからこそ国際結婚家族にも響く作品になると思います。

企画進行中の本が年内に明石書店より発売されます!!

「素顔の国際結婚」の今

世代をつなぐ国際家族のリアル



国際結婚を考える会 J A I F 編

伝えたい、書きとめておきたい、
国をこえる家族のかたち。

国籍法が男女平等になって40年。それでもまだ複数国籍への途は遠い。
国をまたいで、「壁」をのりこえ、次の世代にバトンタッチしたい、国際家族の体験談。

明石書店

「素顔の国際結婚」の今

世代をつなぐ国際家族のリアル

第1回目の企画編集会議は2022年の2月7日。それから2年半の間、7人の編集委員たちが20回以上の会議を重ねてきました。会員を始め協力者への執筆・参加依頼をお願いし、内容、構成についてなど少しずつ、どんな本にするかの内容を固めてきました。帯にもありますが、第1章は30代前半の若い国際家族、第2章は国籍法に関する当事者の声、第3章は家族について、第4章はシニアライフ、第5章は第2、3世代となっており、総勢30人の方々の参加と執筆による体験エッセイ本です。

そして、今年、4月半ばに2名が明石書店に出向き、出版の実現に向けて話し合いの場を持ちました。その後、5月初めに、これまでのお付き合い、テーマ性が弊社に合うので刊行しましょうというお返事を頂きました。それからというもの、各章の担当者らが原稿などを綿密に確認しながら、数回にわたる校正作業、写真、データやイラスト、表紙デザインなど、かなりの急ピッチで最終仕上げに追われていましたが、無事に本日、完了させることが出来ました。早くも12月14日ごろ書店に並ぶとのことですが、とても楽しみにしています。価格は2600円+税、発行部数は、初版1500部で電子書籍版も予定しています。

そこで、会員の皆様、並びに協力会員の方々にお願いがあります。昨今の本販売の不振、紙代の高騰、印刷代、運送費などの諸経費も値上がりしているという実情では、2600円+税というのはやむを得ません。そこで、どのような形で、皆様方に本書を購入して頂くのがベストなのかを検討中です。クラウドファンディングなど、幅広く広報していくことも計画中です。また、会員の半数の方々が海外におられるのでどのように着実にお渡しできるのかなど、問題は山積みですが、早急に結論を出して、また皆様に詳細をお知らせしたいと考えております。

会の40年の歴史となる記念すべき本となります。一人でも多くの方々に手に取って読んで頂きたいので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

2024年11月15日記

編集委員一同 リード真澄、マリク君代、もりきかずみ、湯浅佳代、奥山洋子、
蒔田直子、山内陽子

◎2024年6月16日（日） 第3回国籍法勉強会（気軽な情報交換会）オンライン 参加者16名

昨年度からネット検索を通して入会される方が増え、国籍法について関心が高いことがわかりました。そこで新入会員向けにオンラインでの勉強会を計画しました。国籍に関する情報が本会のホームページのどこに記載されているかなどについて説明しました。参加者からは、パスポート更新時の領事館での体験談や孫世代の日本国籍の維持についての質問、国籍法11条1項の問題点などについて活発な意見交換ができました。次回は、アメリカ在住のメンバーが参加しやすい時間帯での開催を計画します。

◎7月19日（金）大阪地裁・国籍法11条1項 違憲訴訟裁判報告会 参加者 会員17名 非会員16名（会員からの紹介）

仲弁護士と原告（会員）による大阪地裁の報告をしていただきました。近藤弁護士からは国籍法11条1項違憲訴訟についてのお話をいただきました。詳しくは、ホームページのフォーラムをお読みください。

◎8月9日（金）第12回海外会員オンラインお茶会（親睦会） 時間：ハワイ9時、PDT12時、EDT15時、英20時、独21時、 日本 8月10日4時、豪東部5時 参加者14名（会員限定）。

参加したメンバーは、それぞれ住んでいた街の写真を見せ合い、世界中の様々な土地での体験談や国際引っ越しなどについて話しました。話題は多岐にわたりとても楽しいオンラインお茶会になりました。詳しくはフォーラムをご覧ください。

◎11月15日（金）会員の方の旅行経験談 参加者 11名 日本時間21時～22時30分

①風光明媚・スイス旅行 ②スウェーデン北欧圏への旅

スイス在住とスウェーデン在住の2人の会員に、それぞれ友人やご家族と行かれた旅行について、写真を交えてお話していただきました。

初めに、日本から来た友人達と一緒にスイス旅行を計画して、彼らの希望も入れながら国内を案内して回った楽しい旅行の報告でした。ヘルマン・ヘッセが愛した温泉や森の中の町並みはどこをとっても絵画のような美しさです。30年以上スイスにお住まいのエキスパートの案内と一緒に旅ができたご友人達が羨ましくなりました。

スウェーデンの生活は日本からは想像ができない点がたくさんあると思いましたが、ご自宅から見えるオーロラや玄関からスキーを履いて出かけられるのが楽しいとおっしゃる氷点下20度の生活を楽しんでいらっしゃる会員のお話を聞いてとても感動しました。

お隣の国、フィンランドの様子やラップランドに住むサーミ人の話などどれも興味深く勉強になりました。2人からは温暖化の話題も出ましたが、この素晴らしい自然環境がいつまでも残されることを願ってやみません。

「国際家族の二拠点生活」に寄稿して下さった会員の皆様、ありがとうございました。国を超えて家族を持つ私たちは、身体はひとつでも、家族や親せきのいる国々にそれぞれ我が家を持てたら一番理想ですね。そんな中で現実問題と折り合いをつけながら、複数拠点をもちつつ生活されている会員の体験談はとても参考になると思いました。お読みになった感想もぜひお寄せください。

コールマンひろみ

2024年も終わりが近づいてきましたね。皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。僕は変化の大きな1年だったと感じています。仕事のステージも変わりつつあり、これからも楽しみになっています。

プライベートでもいろいろな良い変化もあり、会報係として関わるのは今回が最後になります。会報誌づくりに携わることができて、嬉しかったです！2025年も素敵な1年にしようと思います！

三好 郁也

次回予告 | 会報誌第15号 (2025年6月30日発行予定)

特集：●『国際家族のお家事情』



このテーマを選んだのは、31歳で日本在住の三好です。リトアニア人の奥さんと一緒に、将来はどこに住もうか、どんなライフスタイルにしようかと話し合うなかで、家選んで大変…って感じています。

今後の海外移住も考えると、日本で住宅ローンを組むのはリスクになるのかな…でも、ずっと賃貸も勿体ない気がする…。国際結婚の先輩方！どんなお考えで住む場所を決めたのかなど教えてください！ご自身のお家の好きな空間のお写真もあると嬉しいです！日本と海外の住まい選びの価値観の違いにも気づいた方は、経験談と一緒に教えてもらえると嬉しいです！

会報誌係edit@kokuzaikazoku.comまでご連絡ください。
締め切りは2025年4月30日の予定です。

三好郁也・コールマンひろみ